

羽束師志水町遺跡・長岡京跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
二〇二一―七

羽束師志水町遺跡・長岡京跡

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

羽束師志水町遺跡・長岡京跡

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、道路整備工事に伴う羽東師志水町遺跡・長岡京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

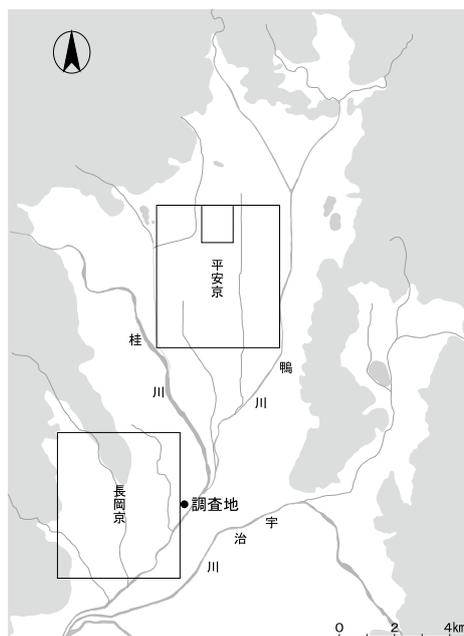
令和4年2月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 羽束師志水町遺跡・長岡京跡（京都市番号 20NG734）
長岡京左京第643次調査（7ANXUK-3、7ANXOC-1）
- 2 調査所在地 京都市伏見区羽束師志水町 地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2021年5月11日～2021年10月29日
- 5 調査面積 約697㎡
(1区：232㎡、2区：66㎡、3区：254㎡、4区：145㎡)
- 6 調査担当者 布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「久我」・「羽束師」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 本書作成 布川豊治
- 13 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	4
(1) 位置と環境	4
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	7
(1) 遺構の概要	7
(2) 1区北半	7
(3) 1区南半	8
(4) 2区	8
(5) 3区	9
(6) 4区	10
4. 遺 物	11
5. ま と め	12

図 版 目 次

図版1	遺構	1区北半平面図(1:100)
図版2	遺構	1区北半東壁断面図(1:50)
図版3	遺構	1区北半東西断割断面図(1:50)、護岸140実測図(1:40)
図版4	遺構	1区南半平面図(1:100)
図版5	遺構	1区南半西壁・南壁断面図(1:50)
図版6	遺構	1区南半護岸119・杭列123実測図(1:50)
図版7	遺構	2区平面図(1:80)
図版8	遺構	2区南壁断面図(1:50)
図版9	遺構	2区護岸88実測図(1:40)
図版10	遺構	2区水路102・集石105実測図(1:40)
図版11	遺構	3区平面図1(1:100)
図版12	遺構	3区平面図2(1:100)
図版13	遺構	3区西壁断面図1(1:50)
図版14	遺構	3区西壁断面図2(1:50)

図版15	遺構	4区平面図（1：100）
図版16	遺構	4区西壁・掘下げトレンチ西壁断面図（1：50）
図版17	遺構	1 1区北半全景（北から） 2 1区北半落込137敷葉状況（南西から）
図版18	遺構	1 1区北半護岸140（北から） 2 1区南半全景（北から）
図版19	遺構	1 1区南半落込131敷葉状況（北東から） 2 1区南半護岸119と杭列123（南西から） 3 1区南半護岸119（北から） 4 1区南半杭列123（北東から）
図版20	遺構	1 2区全景（北から） 2 2区護岸88（北西から）
図版21	遺構	1 2区水路102（東から） 2 3区全景（北西から）
図版22	遺構	1 3区畦71・72・73（北西から） 2 3区足跡群（北から） 3 4区全景（北西から）

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2500）	1
図2	調査区配置図（1：800）	2
図3	1区調査前全景（南東から）	3
図4	1区北半作業状況（北から）	3
図5	1区南半作業状況（北東から）	3
図6	2区調査前全景（南東から）	3
図7	2区作業状況（南から）	3
図8	3・4区調査前全景（南から）	3
図9	3区作業状況（北西から）	3
図10	4区作業状況（北東から）	3
図11	周辺調査位置図（1：2,500）	5

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	6
表2	遺構概要表	7
表3	遺物概要表	11

羽束師志水町遺跡・長岡京跡

1. 調査経過

本調査は、羽束師橋関連道路（第1工区）整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。調査地は、京都市伏見区羽束師水町地内に位置し、集落遺跡である羽束師志水町遺跡に含まれ、また、長岡京左京五条四坊十四町・十五町跡の隣接地でもある。そのため京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）により発掘調査の指導がなされ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて調査を実施することとなった。

調査地は西羽束師川支流の左岸に位置し、東西14m前後、南北約130mの大きさである。調査は当初、調査地のさらに南側の約30mを含めた範囲を調査予定であったが、先行して行った調査の遺構検出状況などから、文化財保護課の指導により4箇所の調査区設定となった。調査区名は北から1区・2区・3区・4区とした。

調査は南の4区から北へ進み、機械掘削、遺構検出、写真撮影、図面作成、埋戻しなどを連続して実施した。調査開始は2021年5月11日である。4区は5月14日から機械掘削を開始した。大きさは東西7.3m、南北19m、面積約145㎡である。3区は6月22日から機械掘削を開始した。大き

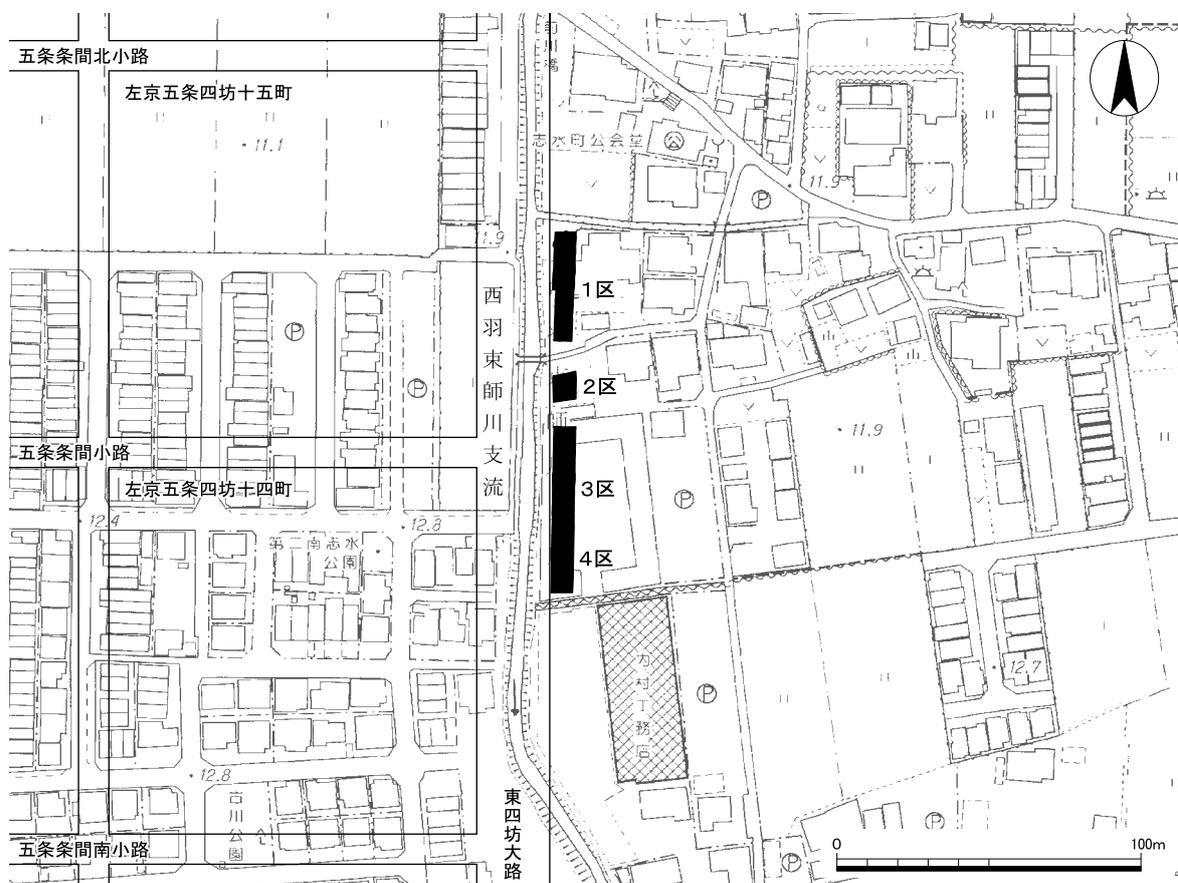


図1 調査位置図 (1:2,500)

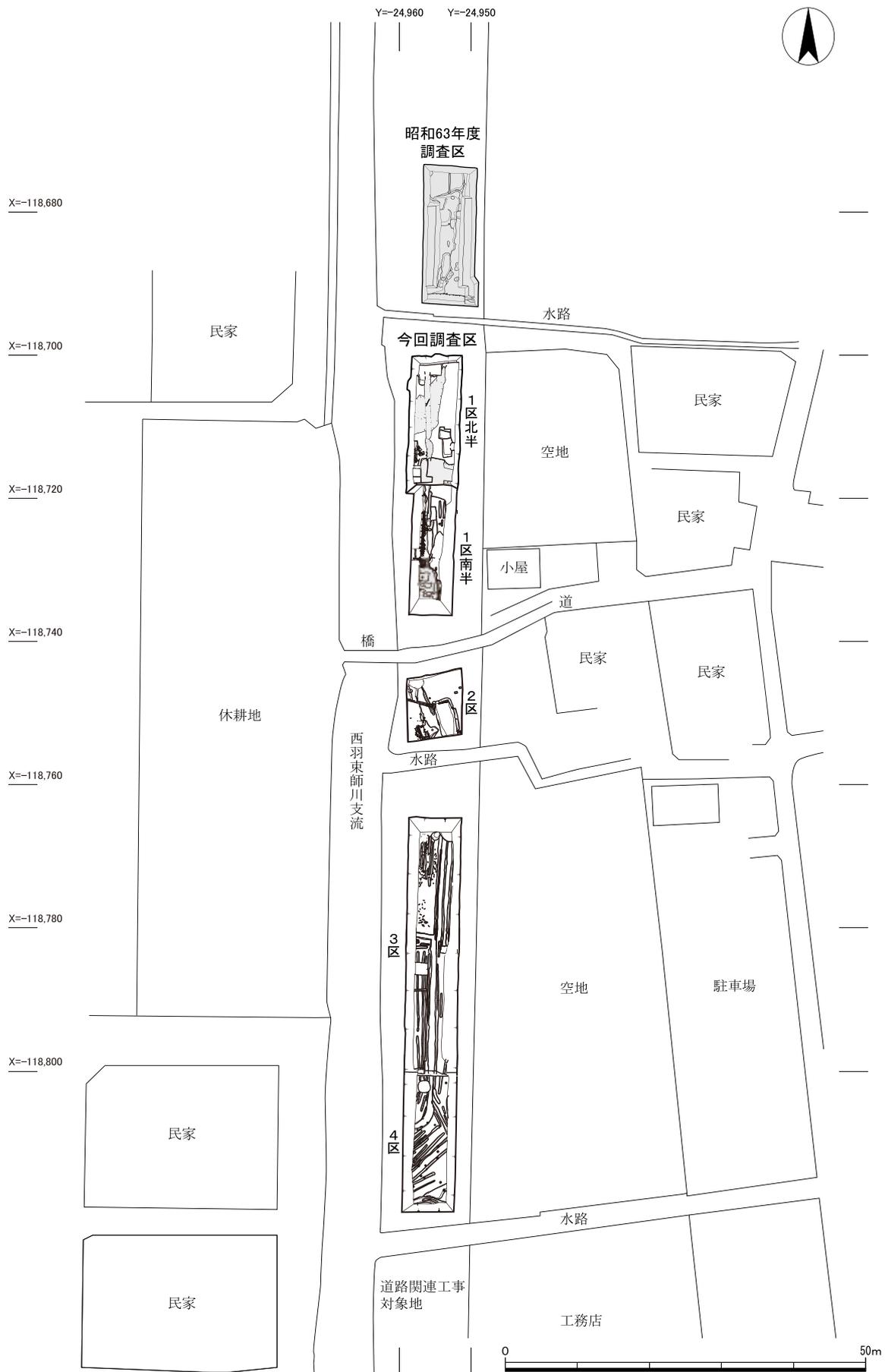


図2 調査区配置図 (1 : 800)



図3 1区調査前全景（南東から）



図4 1区北半作業状況（北から）



図5 1区南半作業状況（北東から）



図6 2区調査前全景（南東から）



図7 2区作業状況（南から）



図8 3・4区調査前全景（南から）



図9 3区作業状況（北西から）



図10 4区作業状況（北東から）

さは東西7.3～7.4m、南北36m、面積約254㎡である。2区は8月5日から機械掘削を開始した。大きさは東西7.5m、南北9m、面積約66㎡である。1区は南半と北半に分けて調査を行った。1区南半は9月9日から機械掘削を開始した。大きさは東西6m、南北18mである。1区北半は10月8日から機械掘削を開始した。大きさは東西7m、南北18mである。1区の合計面積は232㎡である。1区北半の図面作成の後、器材搬出など全てを終え、2021年10月29日に調査を終了した。

調査中には各調査区について文化財保護課の検査・現地指導を受けた。設置した検証委員会の委員である龍谷大学の國下多美樹教授は10月5日に、近畿大学の網 伸也教授は10月21日に視察・検証を受けた。また、委託者である京都市建設局道路建設部道路建設課の視察を適宜受け、9月22日には十数名の視察を兼ねた現場見学会を実施した。

2. 位置と環境

(1) 位置と環境

調査地は、羽東師志水町の集落南西部に立地しており、北側約150mには府道伏見・柳谷・高槻線（外環状線）が通る。西側は隣接して西羽東師川支流が南流している。この支流は名神高速道路桂川パークイングの東辺りから始まり、古川で西羽東師川に合流する水路である。さらに西側約350mには「羽東師の森」とも呼ばれる市内最古の神社、羽東師神社（羽東師坐高御産日神社）が鎮座している。東へ約500mには桂川が北東から南西に流れる。この地の一帯は桂川後背湿地に立地し周辺では水田が耕作されている。調査地は北側の一部が古代末期から中世にかけての集落遺跡である羽東師志水町遺跡があり、調査地全体は長岡京左京五条四坊十四町・十五町跡の隣接地でもある。

(2) 周辺の調査

調査地北側では外環状線道路工事や羽東師橋関連道路工事に伴う発掘調査が実施された。調査1～5と調査8・9は羽東師志水町遺跡、調査6・7は長岡京跡にあたる。調査1～5の全体では基盤層が平安時代の厚い砂礫層で西から東に傾斜する。平安時代末期から鎌倉時代の遺構は柱穴が砂礫層上のほぼ全域に分布し、主な遺構は東側にまとまる。室町時代の遺構は東側が湿地、その西側に隣接して多くの遺構を検出した。桃山時代の遺構は中央部にまとまり、東側は湿地である。江戸時代の遺構は中央部で墓域を検出した。

調査1では4面の遺構面を認め、第4面は平安時代後期の柱穴、第3面は室町時代中期頃の溝、東西濠、土壙墓7基（うち5基が火葬墓）を検出した。第2面は桃山時代から江戸時代前期の南北棟に集石の張り出し部を持つ3×5間の建物、土坑、溝、第1面は江戸時代中期の溝、南北の畦畔を検出し、西側は湿地状になる。調査2では室町時代の溝、火葬墓、柱穴と桃山時代の建物、井戸、土器を伴う土坑を検出した。建物は調査1で検出したものの東半部である。井戸は石仏を転用した

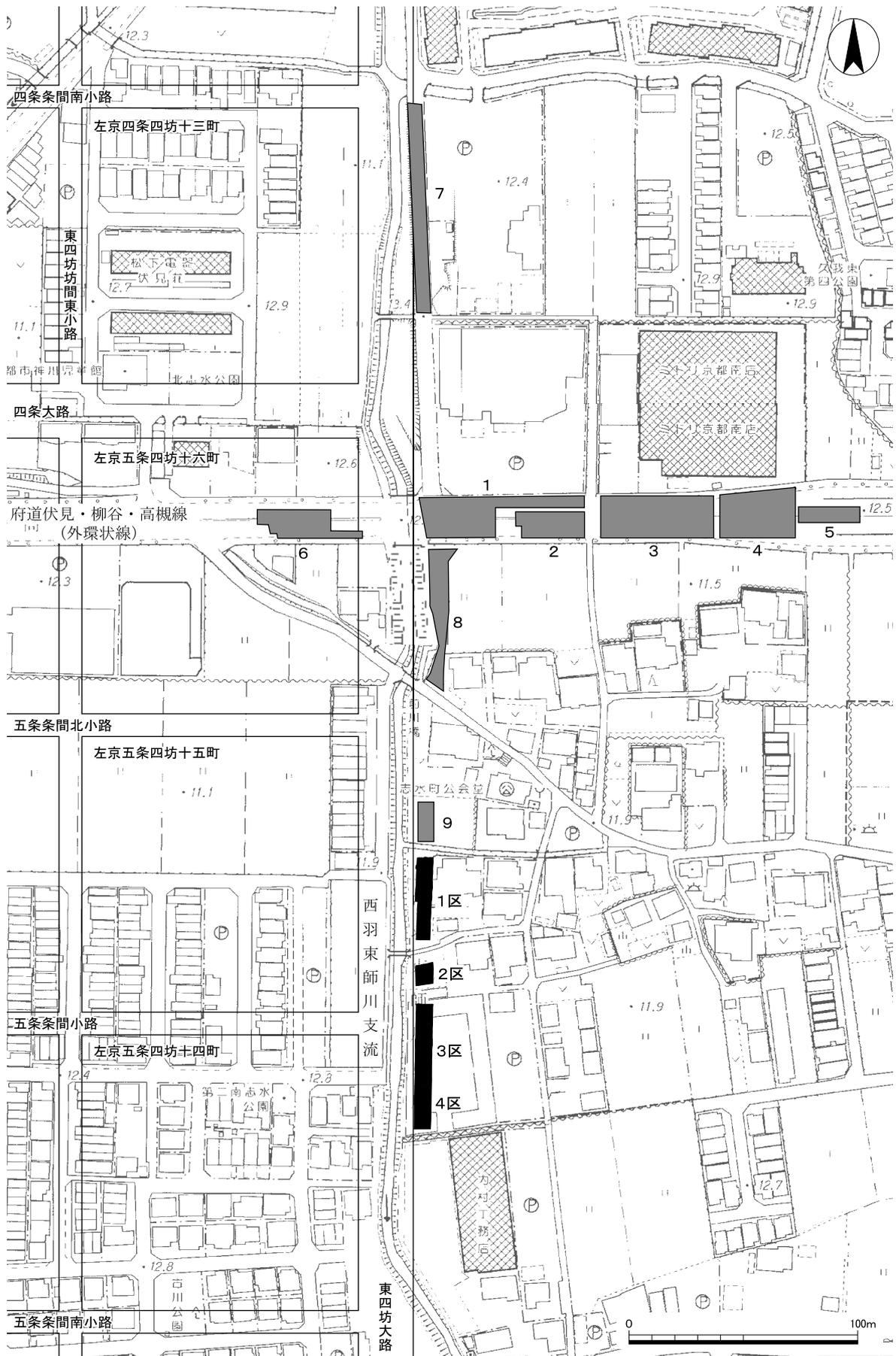


图11 周辺調査位置図 (1 : 2,500)

表1 周辺調査一覧表

番号	調査方法	調査年月	主な遺構	文献
1	発掘	1987.7 ～1988.3	平安時代後期の柱穴、室町時代中期の溝・濠・土壇墓、桃山時代～江戸時代前期の建物・土坑・溝、江戸時代中期の溝・畦畔、湿地。	「長岡京左京四条三・四坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
2	発掘	1988.3 ～1989.9	平安時代後期の柱穴、室町時代の溝・火葬墓・柱穴、桃山時代の建物・井戸・土坑。	「長岡京左京四条三・四坊、羽束師志水町遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
3	発掘	1989.4 ～1989.9	平安時代後期の柱穴、室町時代の溝・濠・土壇墓、桃山時代～江戸時代前期の建物・土壇墓・土坑・溝、江戸時代の土壇墓・溝・畦畔。	「羽束師志水町遺跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
4	発掘	1988.3 ～1989.9	平安時代後期～鎌倉時代の建物・柱穴・井戸・池・溝、室町時代の柱穴・土坑。	「長岡京左京四条三・四坊、羽束師志水町遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
5	発掘	1989.4 ～1989.9	平安時代末期～鎌倉時代の建物・井戸・池・溝、室町時代の湿地。	「羽束師志水町遺跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
6	発掘	1988.3 ～1989.9	奈良時代から長岡京期の柱穴・流路・溝、室町時代の流路。	「長岡京左京四条三・四坊、羽束師志水町遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
7	試掘	2001.1 ～2001.2	時期不明の湿地。	「羽束師志水町遺跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
8	発掘	2007.11 ～2008.1	江戸時代から明治時代の溝・土坑。	『羽束師志水町遺跡・長岡京跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2007-13
9	発掘	2009.12 ～2010.1	江戸時代から明治時代の溝・水田跡・杭列。	『羽束師志水町遺跡・長岡京跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2009-10

※ 番号は図11の調査番号と同一である。

ものがある。調査3では桃山時代の建物、井戸、墓などを検出した。墓は多数の蔵骨器を伴うものがある。江戸時代の遺構は墓坑群を検出した。調査4では平安時代後期から鎌倉時代の多数の柱穴と東西5間・南北3間の東西建物、井戸、溝、池状遺構を検出した。室町時代の遺構は柱穴、土坑を検出した。調査5では平安時代末期から鎌倉時代の柱穴と室町時代以降の湿地を検出した。調査6では奈良時代および長岡京期の流路、溝、柱穴などと中世の室町時代の流路を検出した。調査7では湿地状堆積土層を検出した。時期は不明である。調査8では江戸時代後期から明治時代の溝、土坑などを検出した。調査9では杭列護岸を伴う明治時代の溝、水田跡などを検出した。

3. 遺 構

(1) 遺構の概要

調査は南側の4区から開始したが、遺構の記述は北側の1区からとする。調査は機械掘削で遺構面まで除去した。その結果、1・2区では江戸時代後期から近代の埋立て跡と護岸跡、池跡などを検出した。3・4区では自然堆積層直上で江戸時代の水田跡などを検出した。西羽東師川支流は、1区近辺で現水面の標高が約10.6m、川底の標高が約10.35mである。各区の検出遺構面の標高は、1区北半が10.5m前後、1区南半が標高10.3～10.5m、2区が標高10.5m前後、3区が標高10.1m前後、4区が標高10.1m前後であり、現水面の標高がやや高い。

(2) 1区北半（図版1・17）

検出した遺構は溝、落込、護岸などである。遺構の時期は出土遺物から明治から昭和の近代と考えられる。

基本層序（図版2・3） 地表面標高は11.6m前後である。現代盛土・攪乱が厚さ0.8～1.0m、近代の耕作土が厚さ0.3～0.5m前後である。その下が遺構検出面の近世から近代の埋立層上面であり、標高10.5m前後である。埋立層の下は自然堆積層で、上面の標高は10.2m前後である。

落込137（図版2・17） 調査区北西部で検出した。検出範囲は東西約4m、南北約9mで、西は調査区外に延びる。深さは東から西に深くなり、約1.0mある。埋土は粘土層や砂層が主体で、検出面から約0.2m下には敷葉層が広がる。敷葉層は厚さ0.05～0.1mあり、所々重層になる。敷葉は編んだものではなく、薄めの皮状の材をほぼ同じ方向に並べて面を作り、その上に交差する面を作り、面を何層か重ねている。上面には板や角材などの木材が雑多に散らばる。西羽東師川支流の肩部の落込みを埋め立てた跡と考えられる。

落込138（図版3） 調査区南部で検出した。検出範囲は東西約4.5m、南北約4mで、東は調査区外へ延びる。断割調査で確認した深さは約1.3mある。埋土は粘土層や砂層が主体で、所々間に敷葉層が広がる。

溝136・139（図版3） 調査区西側中央部寄りで検出した南北溝である。落込137を掘り込んでいる。埋土には敷葉層が複層ある。検出長は約12m、幅0.7～0.8m、深さは0.5m前後ある。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
江戸時代後期	3区：畦71・72・73、足跡群、耕作溝 4区：足跡群、畦50、溝21・22、耕作溝	溝21・22は用水路か
近代(明治～昭和)	1区北半：溝136・139、落込137・138、護岸140 1区南半：落込131、護岸119、杭列123 2区：落込100、護岸88、池跡109、水路102、集石105	落込は敷葉層を伴う埋立て跡

護岸140 (図版3・18) 調査区南西部で検出した。横板と杭列、裏込め層の砂礫層を伴う。護岸の方位は真北よりわずかに東偏する。検出範囲は東西約1.5m、南北約3.5mである。杭は径0.05～0.1m、間隔は0.2～0.4mで一定ではない。横板は厚さ0.05m前後、長さは0.4～0.6mである。

(3) 1区南半 (図版4・18)

検出した遺構は落込、護岸、杭列、耕作溝などである。遺構の時期は出土遺物から明治から昭和の近代と考えられる。

基本層序 (図版5) 地表面標高は11.5～11.9mである。現代盛土・攪乱が厚さ0.7～2.0m、近現代の耕作土が厚さ0.8m前後である。その下が遺構検出面の近世から近代の埋立層上面であり、標高10.1～10.5mである。埋立層の下は自然堆積層で、上面の標高は9.2～9.8mである。

落込131 (図版5・19) 調査区南側で検出した。検出範囲は東西約3m、南北約6mで、調査区外の東西と南へ広がる。埋土は粘土層や砂層が主体で、間に敷葉層がある。敷葉層は1区北半のものと同様に、薄めの皮状の材を交互に重ね、並べて面を作り、何層か重ねている。落込みを埋め立てた跡と考えられる。

護岸119 (図版6・19) 調査区西側で検出した。横板、杭列、裏込め砂礫層で構築される。護岸の方位は真北より東偏約2.4度である。検出規模は南北約9.5m、東西約0.5mである。横板は厚さ0.05～0.25m、長さ1.5～2.5m、幅0.05～0.15mである。杭は径0.17m前後で、杭の間隔は0.85mと1.0mである。裏込めは砂礫層であり、径0.1m前後の拳大の礫が多量に混じる。

杭列123 (図版6・19) 調査区中央部、護岸119の南端の調査区西壁を拡張して検出した。護岸119杭列と直交する東西方向の杭列と平行する南北方向の杭列がある。東西杭列は、検出長約1.1mで、杭は隙間なく打ち込まれる。杭列の南に横板があり、それをさらに南側に打ち込んだ杭で止める。横板は厚さ0.05m前後、幅約0.3m、長さは約1.2mある。

南北杭列は、検出長約1.5mで、さらに北に延びると考えられる。杭は3本、横板は3段分を検出した。杭の間隔は約0.6m、横板は厚さ0.02m前後、幅0.3m前後、検出長は1.5mあり、さらに南北に延びる。これらの杭列は、護岸119と一連の土留め遺構を考えられる。

耕作溝 調査区北端近くで検出した。南北溝3基と東西溝1基である。幅0.2～0.3m、長さ0.5～2.4m、深さ0.1m前後である。

(4) 2区 (図版7・20)

検出した遺構は池跡、水路、落込、護岸などである。遺構の時期は出土遺物から江戸時代後期から近代と考えられる。これらの遺構の方位は真北より西偏するものが多い。

基本層序 (図版8) 地表面の標高は11.1m前後である。近現代の耕作土が厚さ0.4m前後ある。その下が遺構検出面の自然堆積層上面であり、標高10.5m前後である。

落込100・護岸88 (図版9・20) 調査区西部で検出した。落込100の検出規模は、東西約5m、南北約10mで、南北と西側は調査区外で広がる。深さは西端で約1.0mある。落込100内の南側で

護岸88を検出した。3重の杭列と横板や埋め木で構築される。検出範囲は東西約2m、南北約2mで、南は調査区外へ広がる。方位は真北より西偏約5.6度である。杭は径0.05～0.1m、長さ0.5m前後、横板は厚さ0.05～0.1m、長さは0.5～0.9mである。埋め木は径0.05～0.15m、長さ0.3m前後である。護岸88より北側約0.6mには東西杭列がある。4本並び、間隔は不規則である。周囲には埋木や板の破片が点在する。いずれも、落込100を埋め立てる際の土留めと考えられる。

池跡109 調査区東部で検出した。真北よりやや西に振れる。検出規模は東西2.8m前後、南北約5mで、南は調査区外に延びる。深さは検出面から約0.5m、断面で確認できる成立面からの深さは約0.8mある。埋土は水分を多く含む粘土で池跡と考えられる¹⁾。近現代の遺物が出土した。

水路102 (図版10・21) 調査区西半で検出した。池跡109から延びる水路である。幅0.4m前後、深さ0.3～0.5m、検出長は約4mである。西は調査区外へ延びる。池との接合部には、南北約1.1m、東西約0.5mの半円形の水溜め場があり、その中を幅0.2m前後、長さ0.4～0.5mの縦の木板で囲む。水溜め場から、幅約0.3m、深さ約0.25m、厚さ0.05～0.1前後、長さ約1mの木樋が延びる。蓋板の痕跡が残っていた。木樋に土管が接続する。土管は長さ約0.7m、径約0.1mを測る。さらに竹樋が接続する。池跡109からの排水路と考えられる。

集石105 (図版10) 調査区南東部隅で検出した。短径約0.4m、長径約0.7mの楕円形で、深さは0.1m前後ある。拳大の礫が密集している。検出位置から池跡109の取水口と考えられる。

水路102、集石105は池跡109と一連のもので排水路、取水口と考えられる。また、水路102は護岸を埋める埋立て層を掘り込んで成立していることから、時期は現代に近いと考えられる

(5) 3区 (図版11・12・21)

検出した遺構は畦、耕作溝、多数の足跡群などである。遺構の時期は出土遺物から江戸時代後期と考えられる。

基本層序 (図版13・14) 地表面の標高は12.6m前後である。現代盛土・攪乱が厚さ1.6m前後ある。その下が厚さ0.8～0.9mの耕作土である。その下が遺構検出面の自然堆積層上面で、標高10.1m前後である。耕作土層中には最下層耕作土の直上と最上層耕作土の直下に厚さ0.1m前後の砂層が認められる。冠水した痕跡と考えられる。

畦71 (図版22) 調査区中央部で検出した南北方向の畦である。調査区中央部で畦72につながる。幅0.6m前後、高さ0.1m前後、南北約14m分を検出した。幅0.2m、深さ0.1m前後、南北約12.5mの溝63が畦上東寄りに走る。

畦72 (図版22) 調査区中央部で検出した東西方向の畦である。幅0.8m前後、高さ0.1m前後、東西約2m分を検出した。西は調査区外へ延び、東は畦71と接続する。

畦73 (図版22) 調査区中央部で検出した南北方向の畦である。畦71と連続し、南へ延びて4区の畦50につながる。幅0.9～1.2m、高さ0.2m前後、南北約14m分を検出した。

足跡群 (図版22) 調査区北西部、畦71と畦72に囲まれた範囲で多数の足跡を検出した。幅0.1m前後、長さ0.1～0.25m前後、深さ0.1m前後である。埋土は砂である。壁断面の検討から耕作土

層の下層部に堆積する砂層直下から踏み込まれていることがわかる。

耕作溝 畦に沿う多数の耕作溝を検出した。畦72の南側で検出した5基の東西溝を除き、南北に走る耕作溝が大半を占める。幅0.1～0.3m、深さ0.05m前後、長さは1.5～18mを測る。

(6) 4区 (図版15・22)

検出した遺構は耕作溝、畦、溝、ピットなどである。遺構の時期は出土遺物から江戸時代後期と考えられる。

基本層序 (図版16) 地表面の標高は12.7m前後である。現代盛土・攪乱が厚さ1.7m前後ある。その下が厚さ0.8m前後の耕作土である。その下が遺構検出面の自然堆積層上面で標高10.1m前後である。耕作土層中の上部には厚さ0.1m前後の砂層が認められる。冠水した跡と考えられる。

畦50 調査区北半で検出した南北方向の畦である。北端から南へ約6m伸び、西へ湾曲して調査区外に続く。幅は1m前後、高さ0.1m前後である。構築土は周囲の土層より固く締まる。

溝21・22 調査区南端で検出した。他の耕作溝より幅広でやや深い。幅は0.6～1.6m、深さは0.1～0.15mである。

耕作溝 調査区全域で多数の耕作溝を検出した。これらの溝は畦50の方向に沿い、南北溝と北東から南西溝に走る溝にほぼ大別できる。幅は0.2～0.4m、深さは0.1～0.2m、検出長は1mから最大7mを測る。大部分の溝は調査区外の延びる。

註

- 1) 2区東隣民家の住人(2区の旧土地所有者。70代)への聴き取りによれば、「このあたり(2区)で祖父の時代に池で養魚をしていた。」とのことである。

4. 遺 物

遺物は整理箱で9箱出土した。種類の内訳は、大まかに土器類が8割、瓦類が1割、木製品・石製品が1割である。遺物の時期は、平安時代から江戸時代と近代の遺物がある。内訳は、近代の遺物が6割、江戸時代の遺物は4割弱であり、主に江戸時代後期である。その他少数の平安時代から鎌倉時代の遺物がある。これは西羽束師川支流の二次堆積物と考えられる。

以下に各区ごとに概要を記す。

1区北半では平安時代から近代の遺物が出土した。平安時代から鎌倉時代のものには瓦器、瓦が数点ある。江戸時代のものには土師器、土師質土器、施釉陶器、染付陶磁器、磁器、瓦類がある。近代のものには土師質土器、施釉陶器、染付陶磁器、瓦類、木製品、石製品、ガラス片などがある。

1区南半では平安時代から近代の遺物が出土した。平安時代から鎌倉時代のものには須恵器、瓦器、瓦などが数点ある。江戸時代のものには土師器、土師質土器、施釉陶器、染付陶磁器、磁器、瓦類などがある。近代のものには土師質土器、施釉陶器、染付陶磁器、瓦類、木製品、石製品、ガラス片などがある。

2区では平安時代から近代の遺物が出土した。平安時代から鎌倉時代のものには須恵器、瓦器、瓦類などが数点ある。江戸時代のものには土師器、土師質土器、施釉陶器、染付陶磁器、青磁、瓦類がある。近代のものには土師質土器、施釉陶器、染付陶磁器、瓦類、木製品、石製品、ガラス片などがある。

3区では平安時代から江戸時代の遺物が出土した。出土量は少量である。平安時代から鎌倉時代のものは瓦器が2点ある。江戸時代のものには土師器、磁器がある。

4区では平安時代から江戸時代の遺物が出土した。出土量は少量である。江戸時代のものには土師器、施釉陶器、染付陶磁器がある。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	須恵器、瓦器、瓦類				
江戸時代	土師器、土師質土器、施釉陶器、磁器、染付陶磁器、瓦類				
近代 (明治～昭和)	土師質土器、施釉陶器、磁器、染付陶磁器、瓦類、木製品、石製品、ガラス片など				
合 計		10箱	0点(0箱)	3箱	7箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

5. まとめ

今回、検出した主な遺構は落込、護岸跡、水田跡などである。

落込の多くは、調査区の西側で検出した。東から西に向かって落ち込む地形を敷葉工法や杭と横板を用いて丁寧に埋め立てていることが判明した。これは、西羽東師川支流の蛇行する肩部を埋めて、耕作地として利用するために行われた水路改修工事の跡と考えられる。

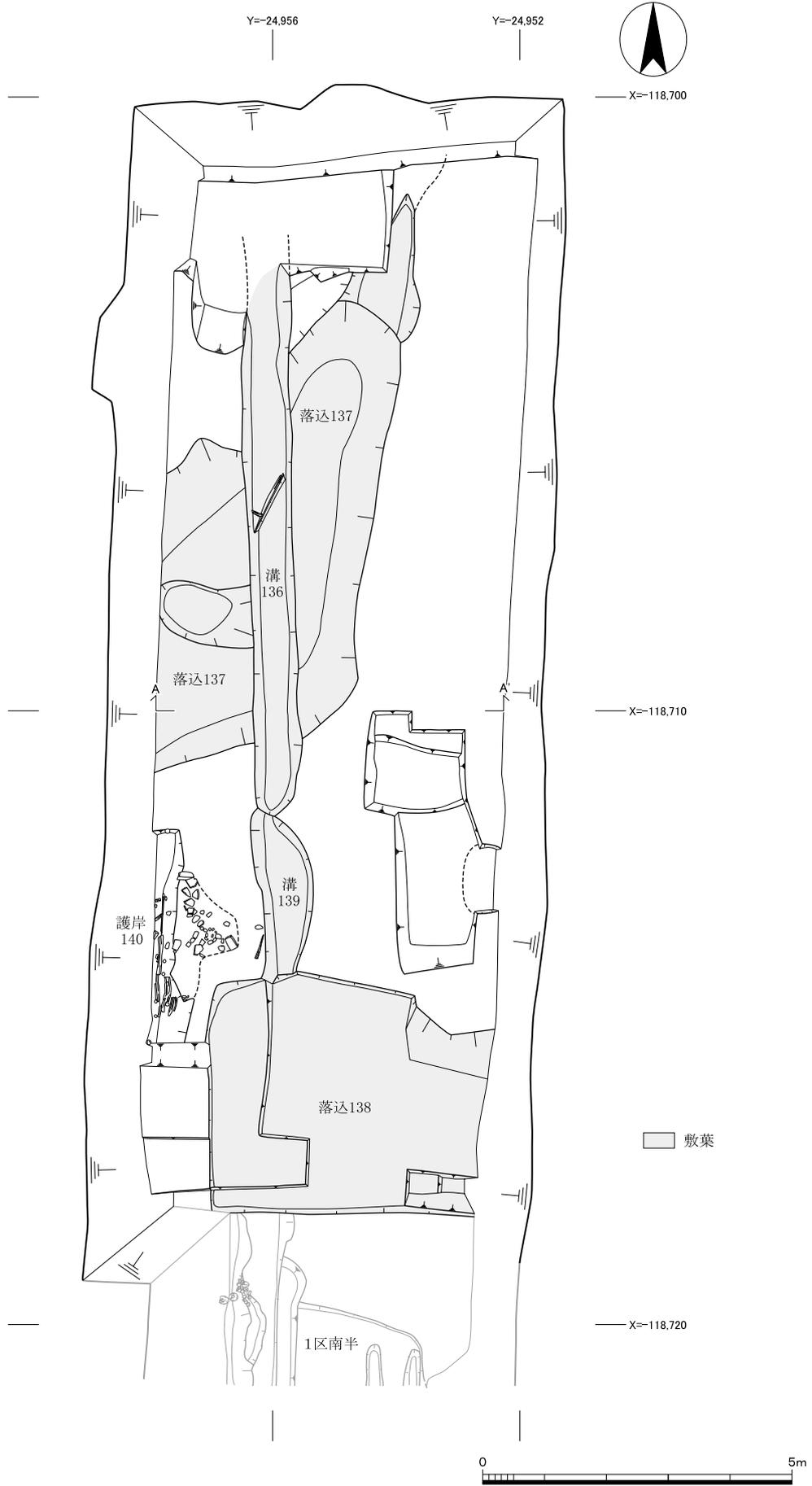
西羽東師川支流は、桂川右岸の乙訓東南部一帯に開削されている水路網の一部であり、この水路網全体は低湿地帯の排水路として、文政2年(1819)に工事が始められて文政8年(1825)に完成し、羽東師川¹⁾と名付けられた。西羽東師川支流は1932年発行の地図では蛇行しているが、1946年の空中写真では河川改修が行われて直線になっていることから、埋め立てなどの水路改修は近代の大戦前に行われたと考えられる。

また、各調査区では耕作土や耕作溝、畦などの水田跡を検出した。3・4区では、累重する耕作土の堆積が厚さ1m近くある。その堆積中には厚めの砂層が広範囲で認められる。これはこの辺りが、かなりの水量で度々冠水した痕跡であろう。当地が水害に苦慮しながらも、護岸や入念な埋め立てを行うことによって、耕作地として利用され続けてきたことが明瞭となった。

註

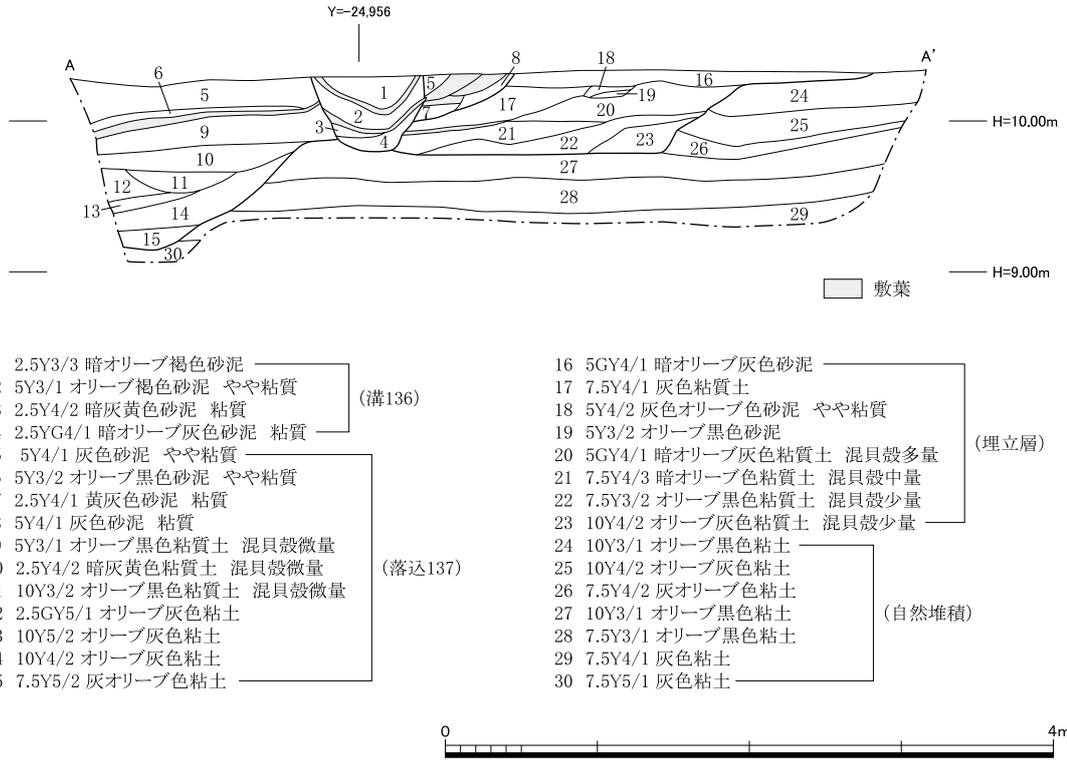
- 1) 京都府編「乙訓郡 第2 羽東師川」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告書』第13冊 1932年。
「羽東師川」の主要部分は、現在の西羽東師川と重複して残っており、西羽東師支流と共に「羽東師川水路網」の一部である。
- 2) 昭和7年12月28日 大日本帝國陸地測量部発行「京都南西部」
- 3) 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス USA-M205-A-5 京都南東部 1946年(昭和21)7月24日

圖 版

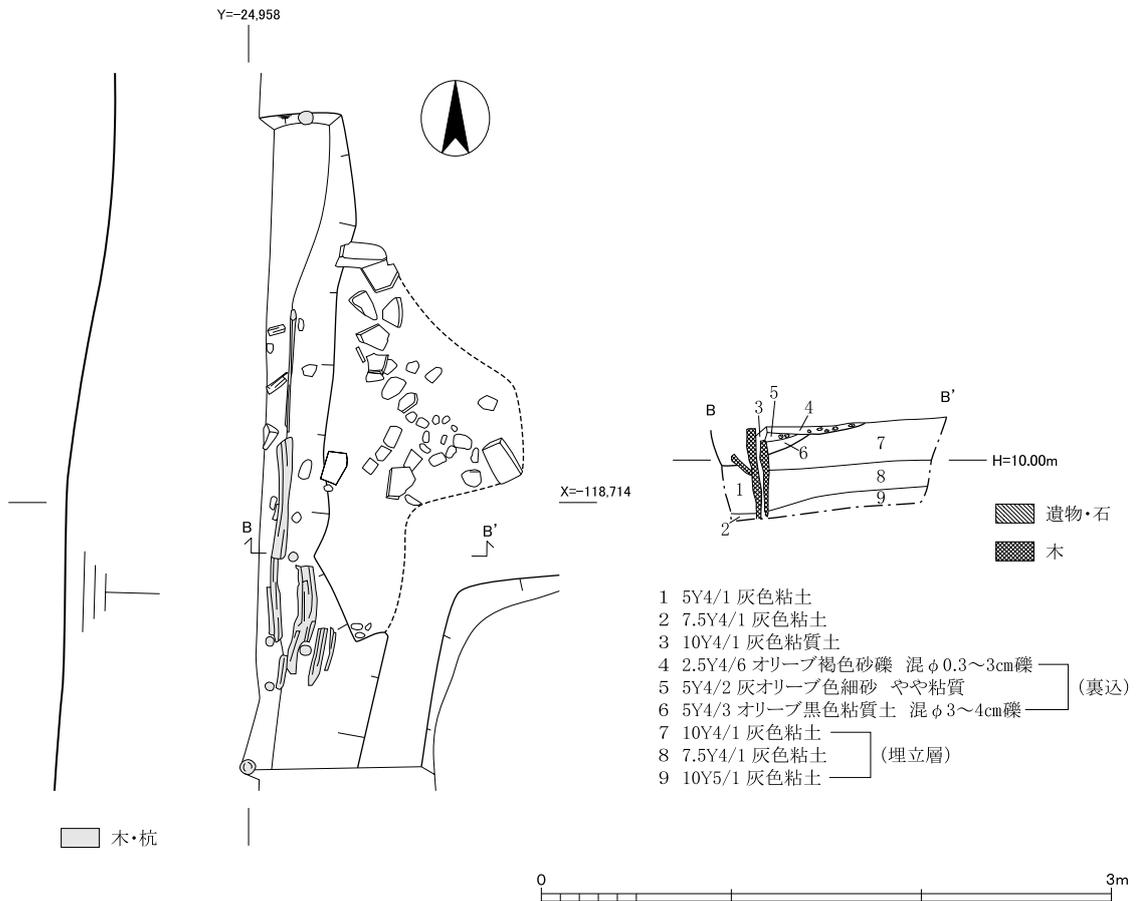


1区北半平面図 (1 : 100)

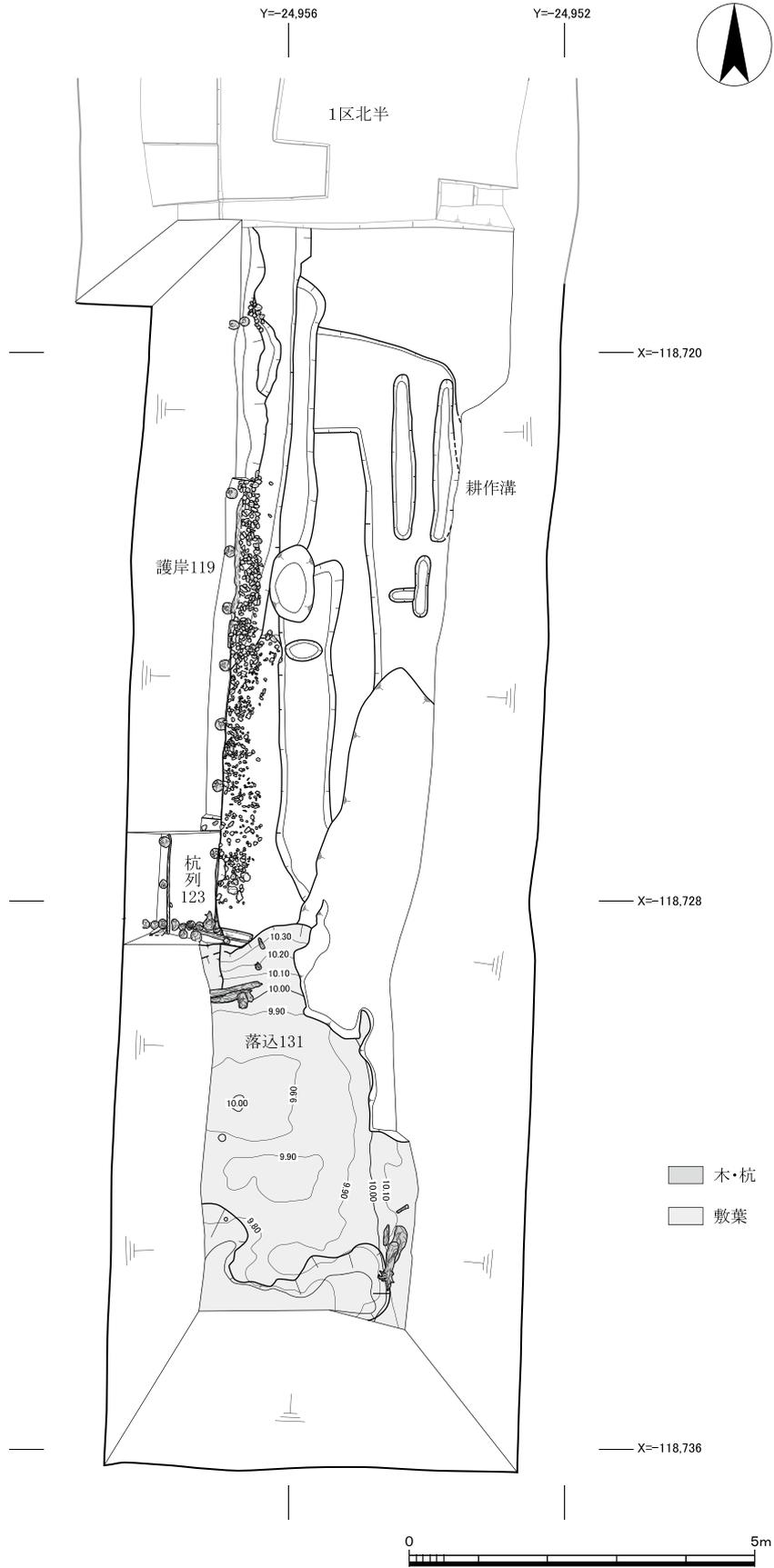
東西断断面(X=-118,710)



護岸140



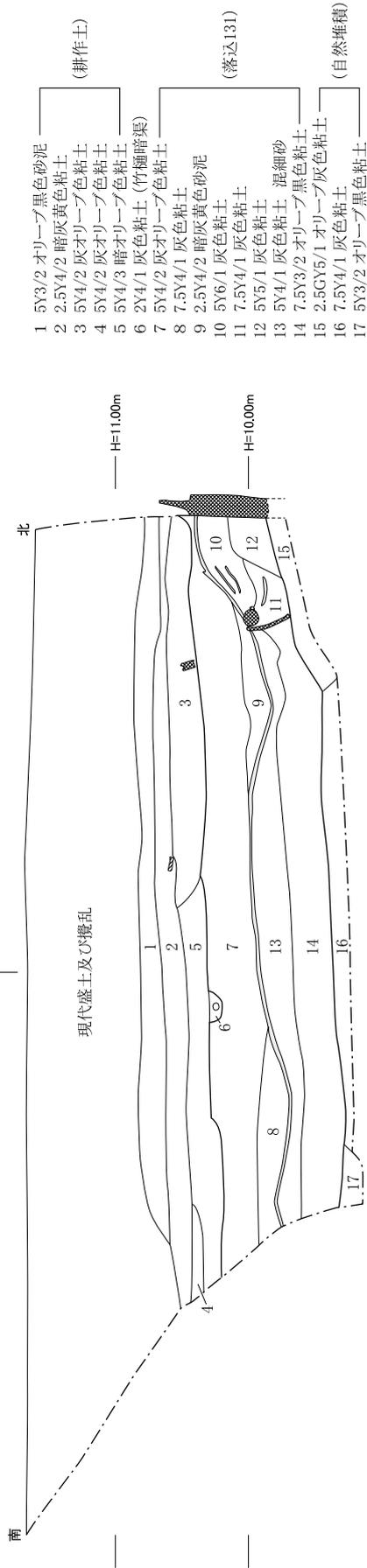
1区北半東西断断面図(1:50)、護岸140実測図(1:40)



1区南半平面图 (1 : 100)

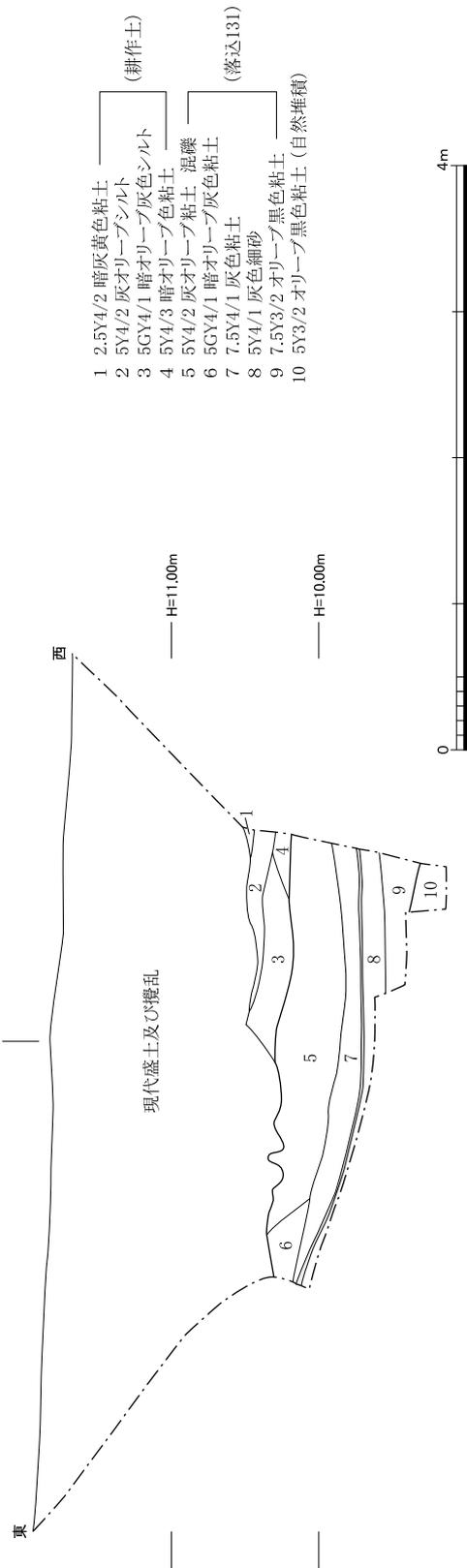
西壁断面

X=118,732



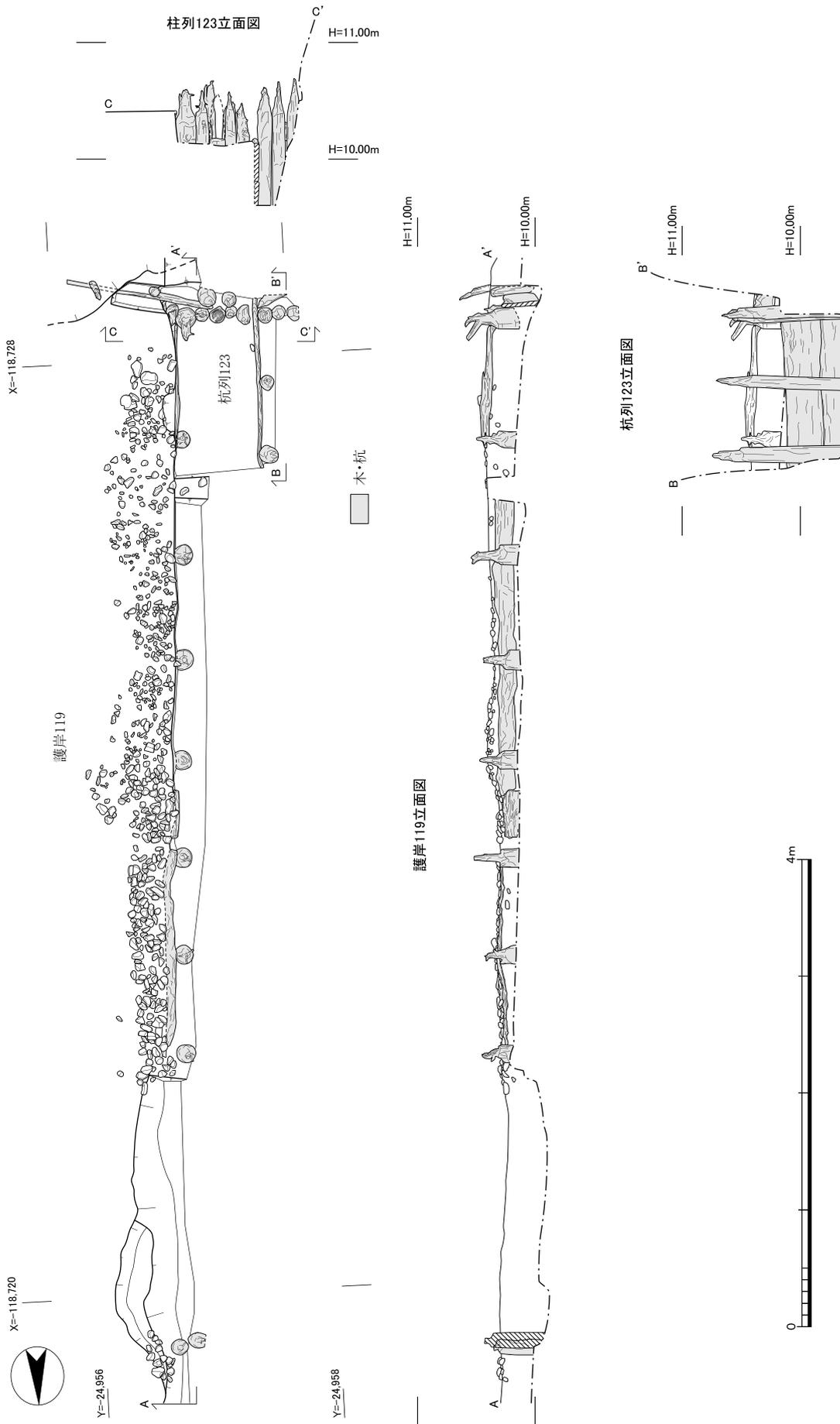
南壁断面

Y=24,956

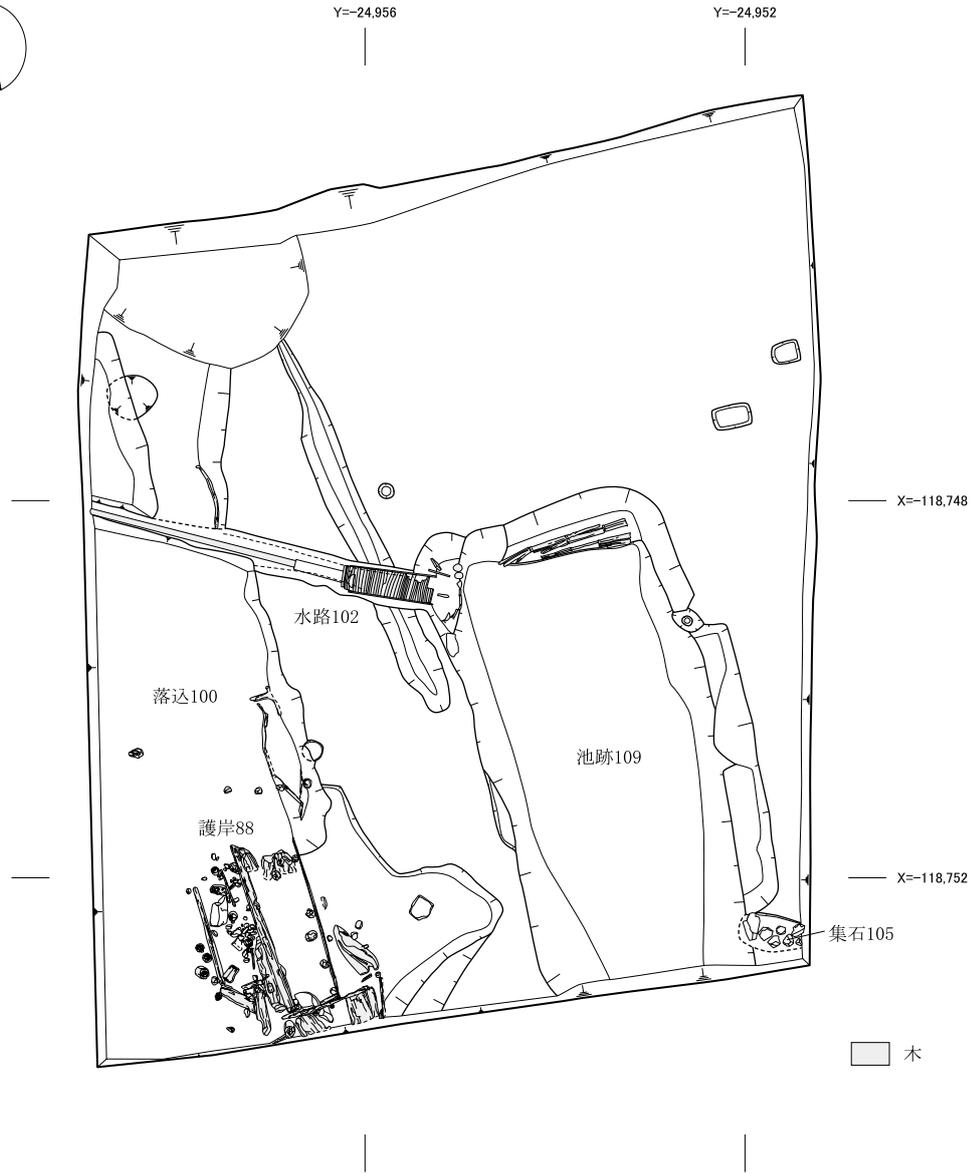


1区南半西壁・南壁断面図 (1 : 50)

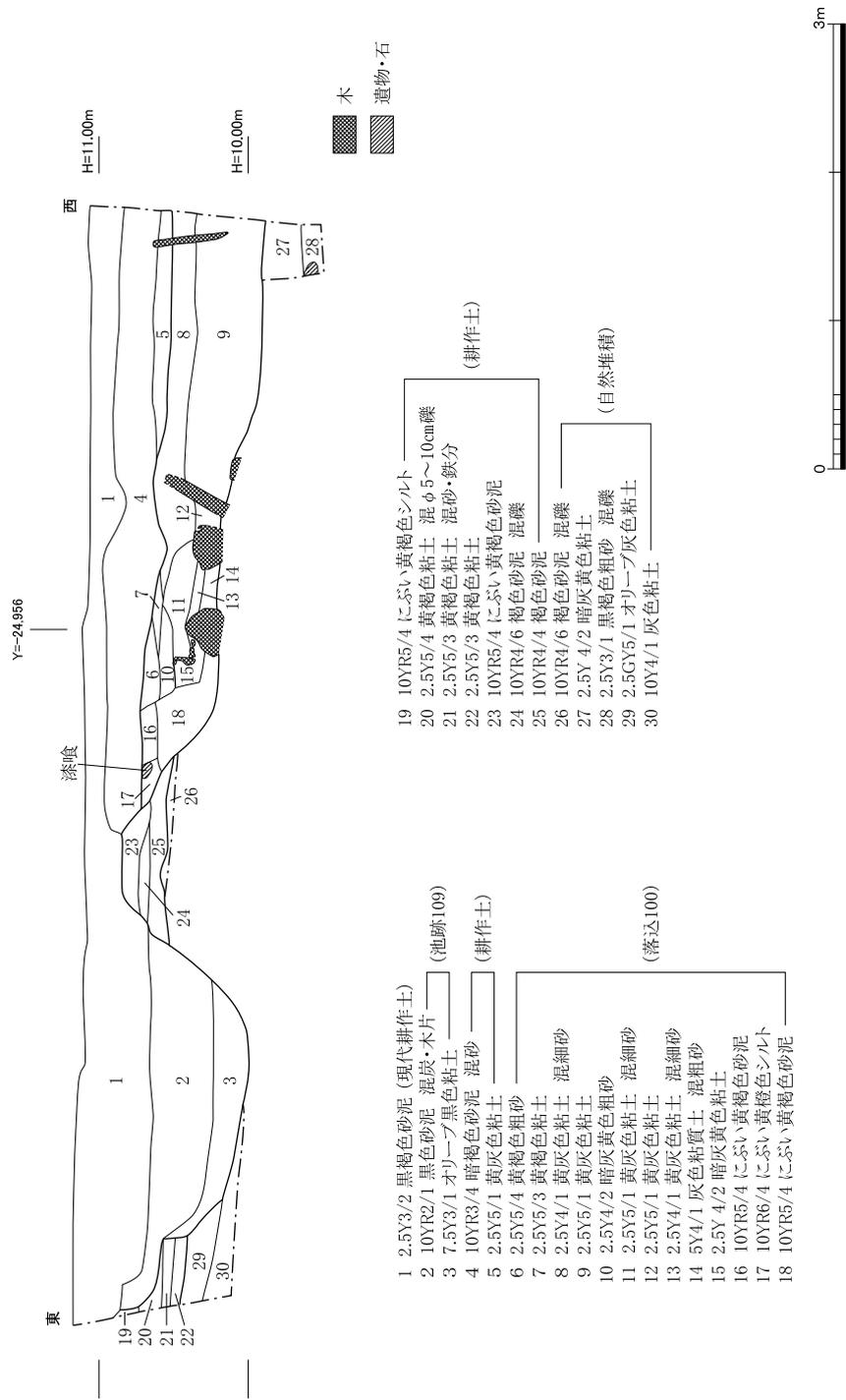
図版6 遺構



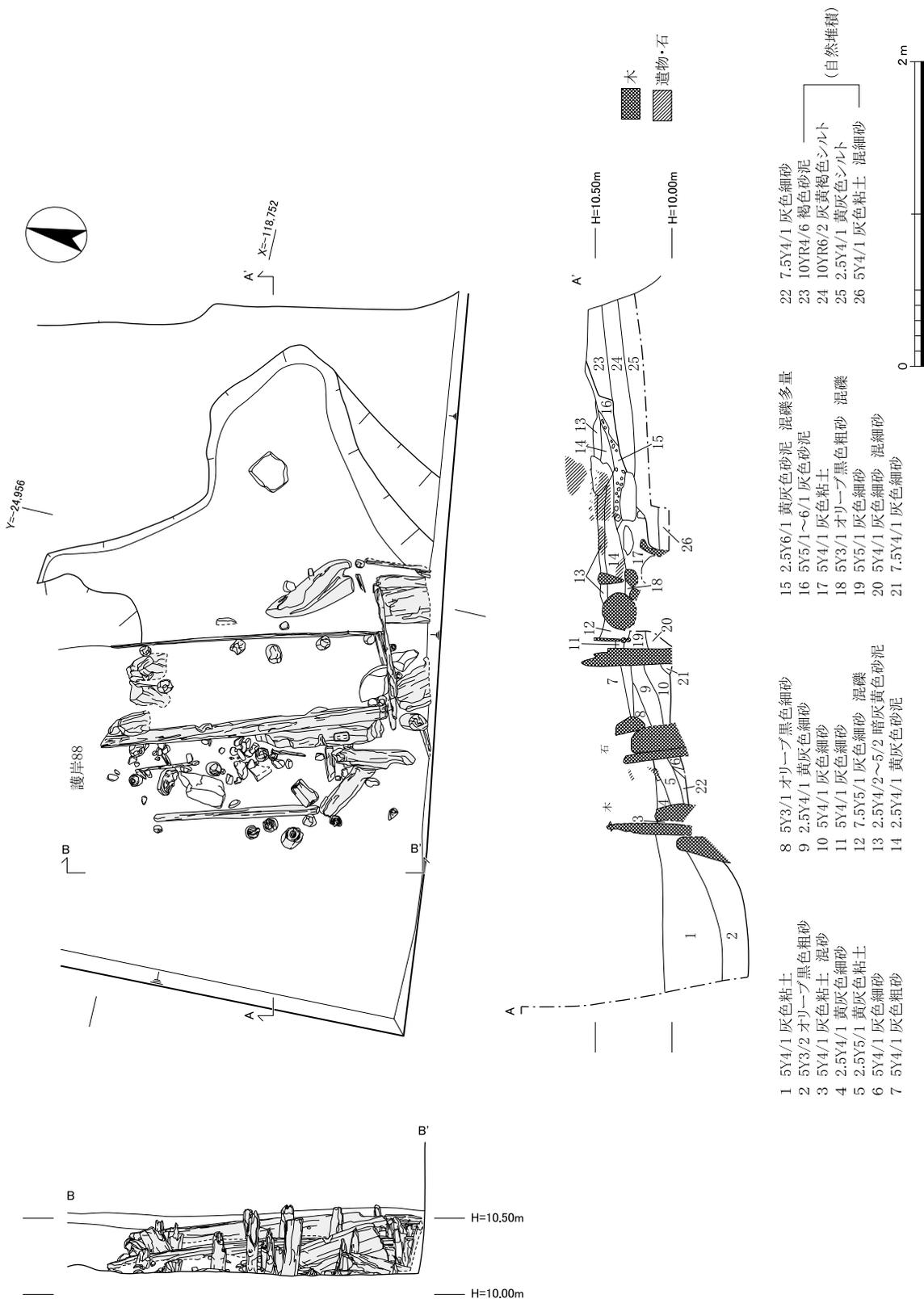
1区南半護岸119・杭列123実測図(1:50)



2区平面図 (1 : 80)



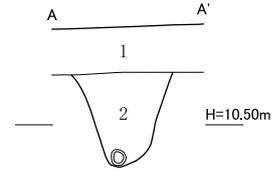
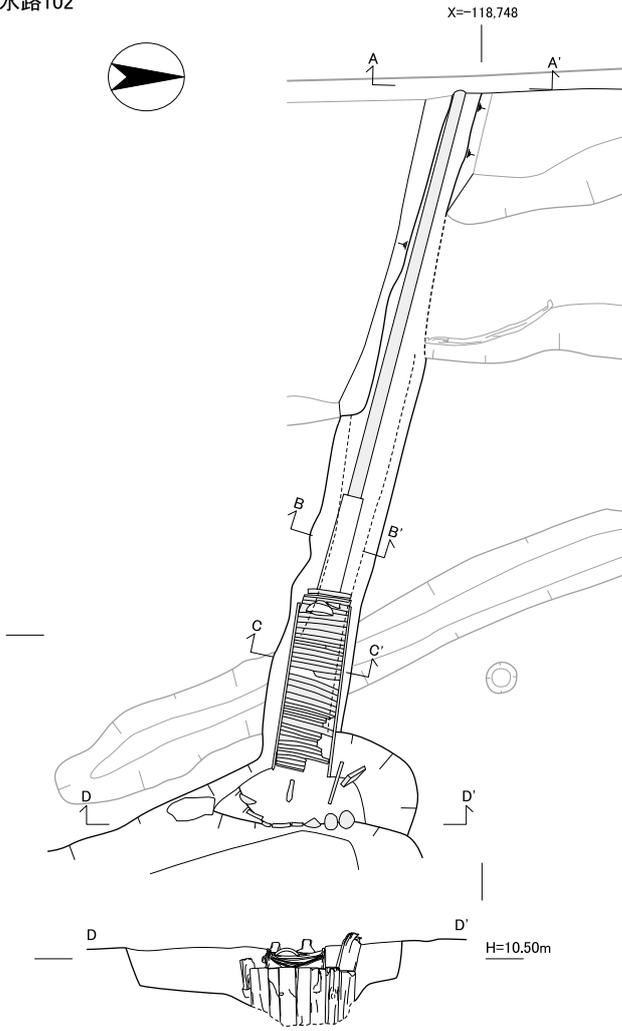
2区南壁断面図 (1 : 50)



- | | | | | | | | | |
|---|----------------|----|--------------------|----|----------------|------|----|-----------------|
| 1 | 5Y4/1 灰色粘土 | 8 | 5Y3/1 オリーブ黒色細砂 | 15 | 2.5Y6/1 黄灰色砂泥 | 混礫多量 | 22 | 7.5Y4/1 灰色細砂 |
| 2 | 5Y3/2 オリーブ黒色粗砂 | 9 | 2.5Y4/1 黄灰色細砂 | 16 | 5Y5/1~6/1 灰色砂泥 | | 23 | 10YR4/6 褐色砂泥 |
| 3 | 5Y4/1 灰色粘土 | 10 | 5Y4/1 灰色細砂 | 17 | 5Y4/1 灰色粘土 | | 24 | 10YR6/2 灰黄褐色シルト |
| 4 | 2.5Y4/1 黄灰色細砂 | 11 | 5Y4/1 灰色細砂 | 18 | 5Y3/1 オリーブ黒色粗砂 | 混礫 | 25 | 2.5Y4/1 黄灰色シルト |
| 5 | 2.5Y5/1 黄灰色粘土 | 12 | 7.5Y5/1 灰色細砂 | 19 | 5Y5/1 灰色細砂 | 混礫 | 26 | 5Y4/1 灰色粘土 |
| 6 | 5Y4/1 灰色細砂 | 13 | 2.5Y4/2~5/2 暗灰黄色砂泥 | 20 | 5Y4/1 灰色細砂 | 混細砂 | | (自然堆積) |
| 7 | 5Y4/1 灰色粗砂 | 14 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 | 21 | 7.5Y4/1 灰色細砂 | | | |

2区護岸88実測図 (1 : 40)

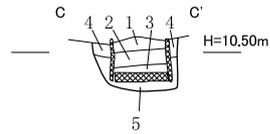
水路102



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 (耕作土)
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 (水路掘形)

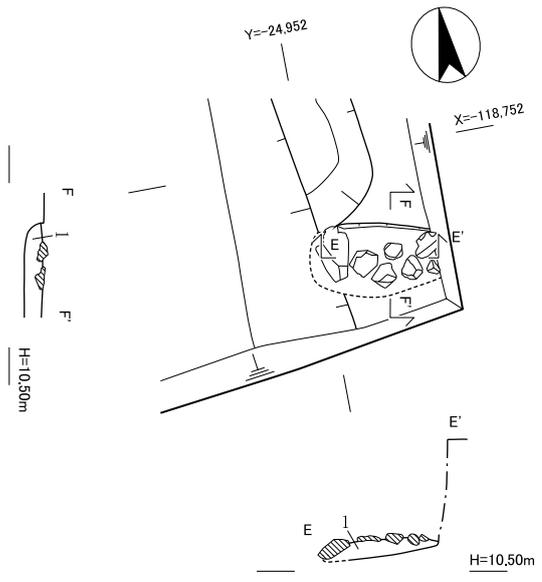


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 (水路掘形)



- 1 10YR4/6 褐色砂泥 混黒褐色土 (覆土)
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 (堆積層)
- 3 10YR3/1 黒褐色細砂 (堆積層)
- 4 10YR4/6 褐色砂泥 (水路掘形)
- 5 10YR5/1 褐灰色砂泥 (水路掘形)

集石105



- 1 10YR3/4 暗褐色砂泥 粘質





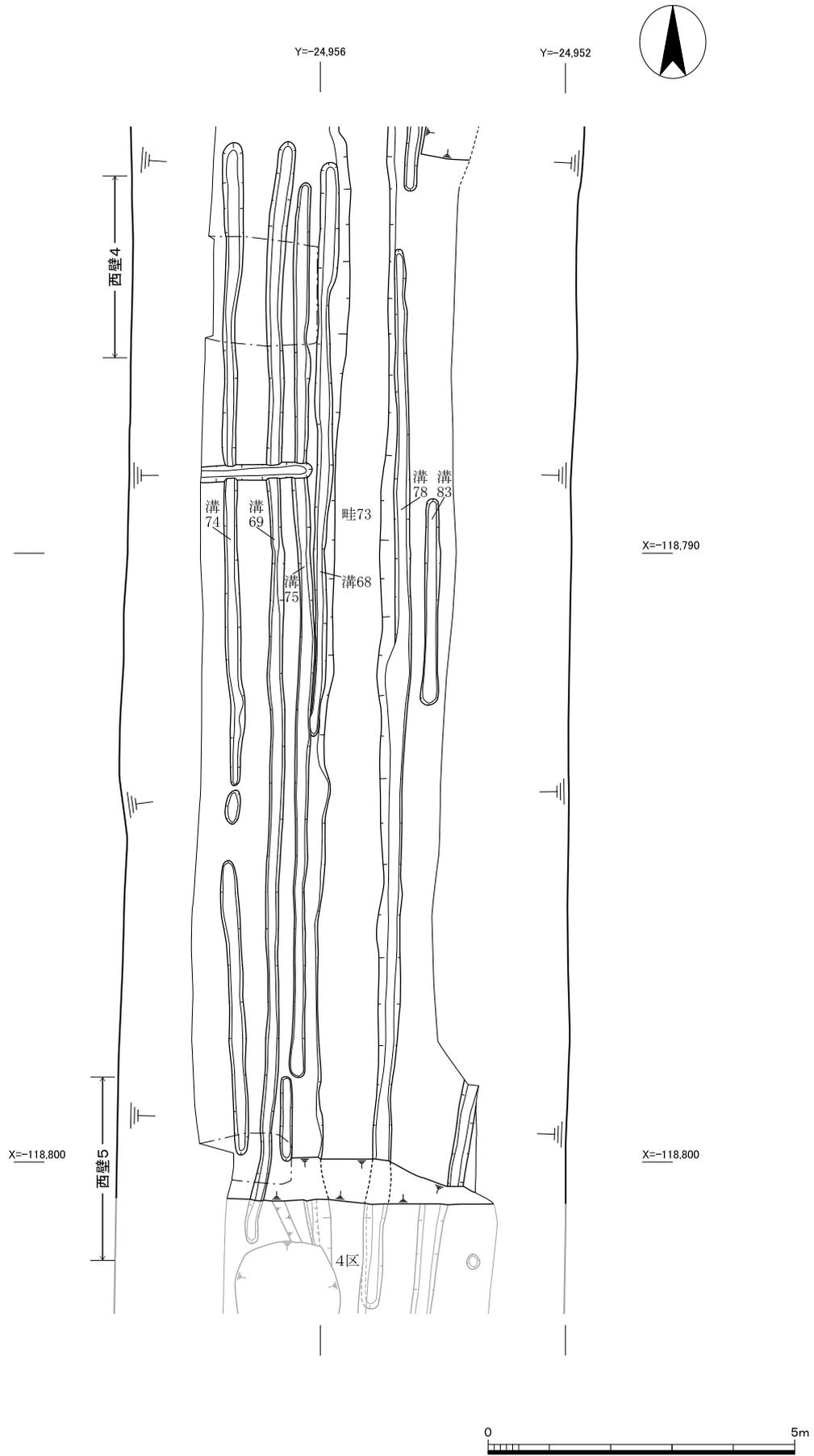
Y=-24,956

Y=-24,952



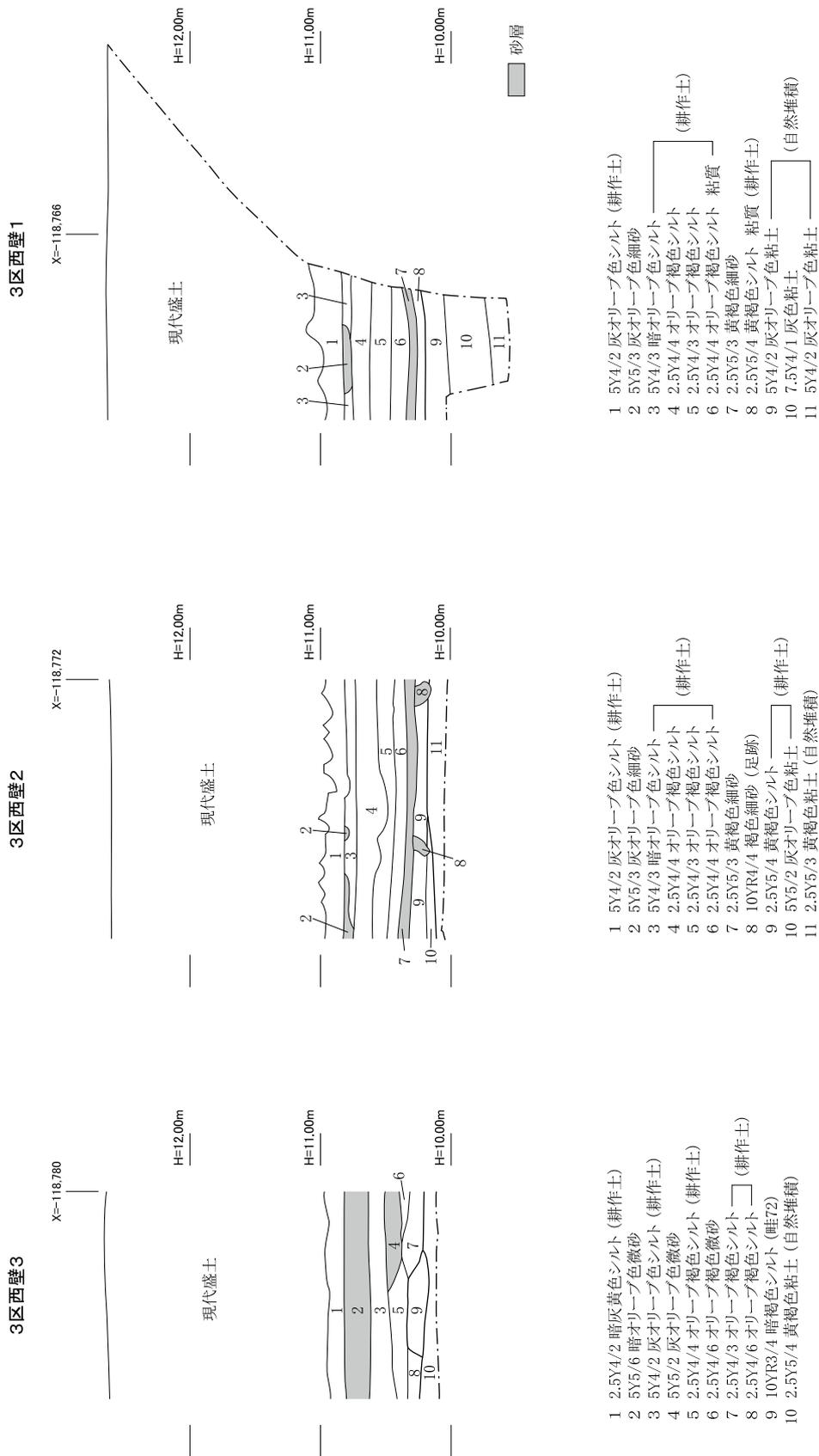
3区平面図1 (1:100)





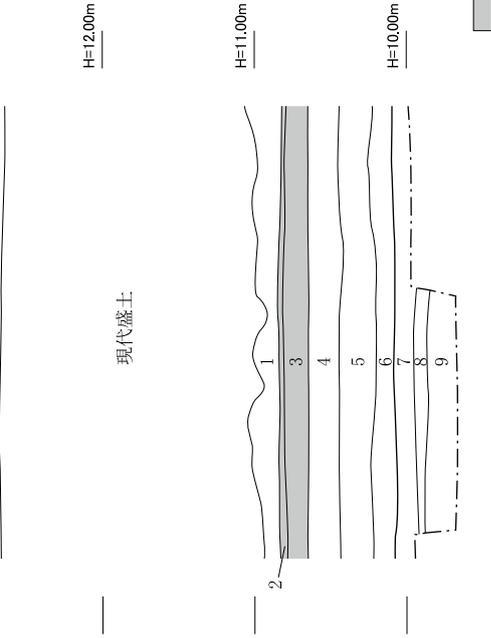
3区平面图2 (1 : 100)

3区西壁断面図1 (1 : 50)



3区西壁4

X=-118.785

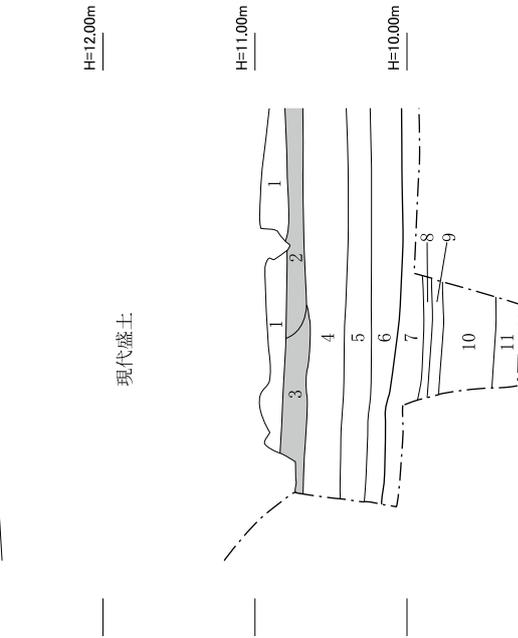


- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (耕作土)
- 2 2.5Y5/6 黄褐色細砂
- 3 5Y4/4 暗オリーブ色微砂
- 4 5Y4/2 灰オリーブ色シルト
- 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (耕作土)
- 6 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト
- 7 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土
- 8 5Y5/2 灰オリーブ色粘土 (自然堆積)
- 9 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘土



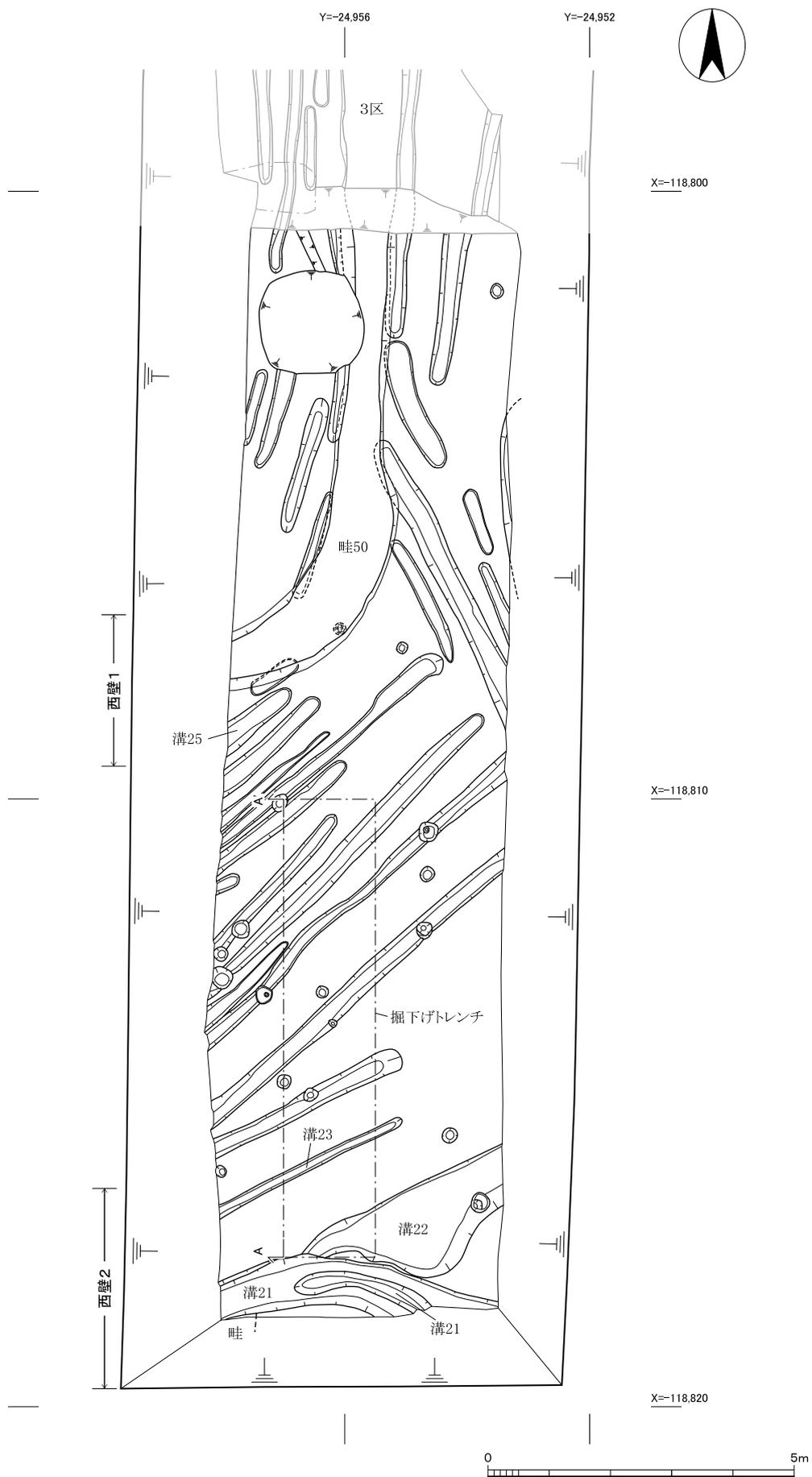
3区西壁5

X=-118.800



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (耕作土)
- 2 2.5Y5/6 黄褐色細砂
- 3 5Y4/2 暗オリーブ色微砂
- 4 5Y4/2 灰オリーブ色シルト
- 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト
- 6 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト (耕作土)
- 7 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土
- 8 5Y4/3 暗オリーブ色粘土
- 9 5Y4/2 灰オリーブ色粘土 (自然堆積)
- 10 7.5Y4/1 灰色粘土
- 11 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘土

3区西壁断面図2 (1 : 50)



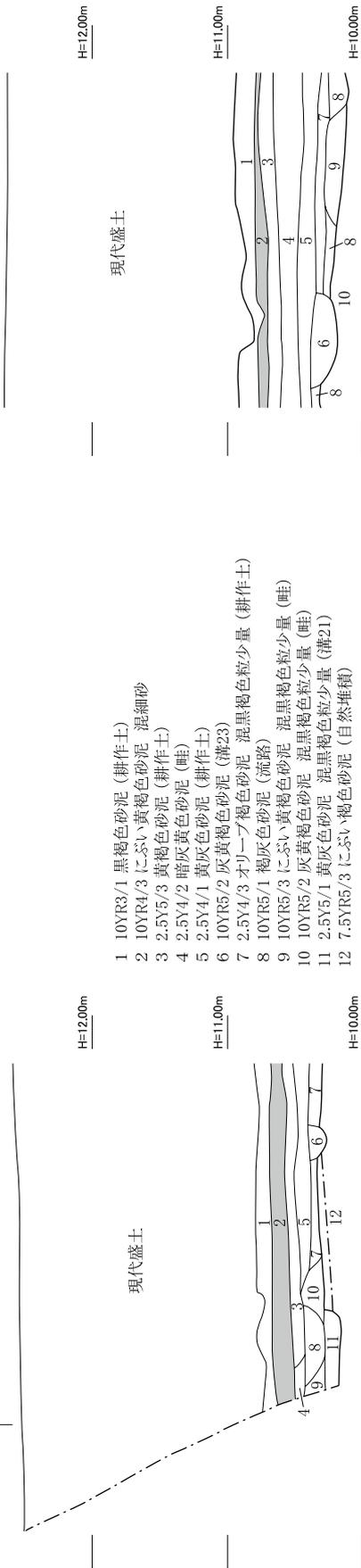
4区平面図 (1 : 100)

4区西壁2

4区西壁1

X=-118.809

X=-118.819



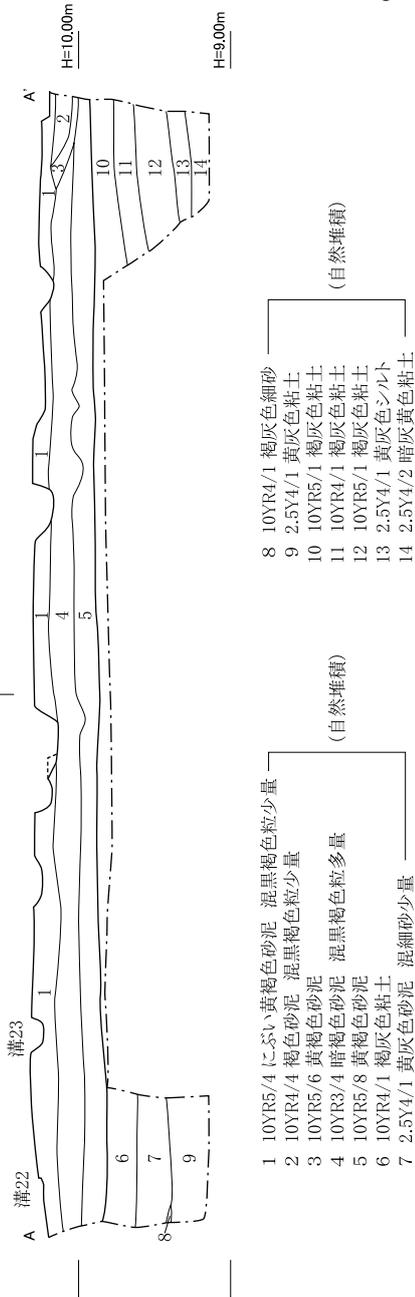
現代盛土

- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 (耕作土)
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 混細砂
- 3 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 (耕作土)
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 (畦)
- 5 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 (耕作土)
- 6 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 (溝23)
- 7 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 混黒褐色粒少量 (耕作土)
- 8 10YR5/1 褐灰色砂泥 (流路)
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 混黒褐色粒少量 (畦)
- 10 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 混黒褐色粒少量 (畦)
- 11 2.5Y5/1 黄灰色砂泥 混黒褐色粒少量 (溝21)
- 12 7.5YR5/3 にぶい褐色砂泥 (自然堆積)

- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 (耕作土)
- 2 10YR5/1 褐灰色砂泥 混細砂
- 3 2.5Y5/3 黄褐色砂泥
- 4 2.5Y4/1 黄灰色砂泥
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 混黒褐色粒少量
- 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 混黒褐色粒多量 (溝25)
- 7 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 混黒褐色粒中量
- 8 10YR4/4 褐色砂泥 混黒褐色粒多量 (耕作土)
- 9 2.5Y5/4 黄褐色砂泥 混黒褐色粒多量 (畦50)
- 10 7.5YR4/3 褐色砂泥 混黒褐色粒多量 (自然堆積)

4区掘下げトレンチ西壁

X=-118.814



- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 混黒褐色粒少量
- 2 10YR4/4 褐色砂泥 混黒褐色粒少量
- 3 10YR5/6 黄褐色砂泥
- 4 10YR3/4 暗褐色砂泥 混黒褐色粒多量
- 5 10YR5/8 黄褐色砂泥
- 6 10YR4/1 褐灰色粘土
- 7 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 混細砂少量

(自然堆積)

(自然堆積)

- 8 10YR4/1 褐灰色細砂
- 9 2.5Y4/1 黄灰色粘土
- 10 10YR5/1 褐灰色粘土
- 11 10YR4/1 褐灰色粘土
- 12 10YR5/1 褐灰色粘土
- 13 2.5Y4/1 黄灰色シルト
- 14 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土



4区西壁・掘下げトレンチ西壁断面図 (1:50)



1 1区北半全景（北から）



2 1区北半落込137敷葉状況（南西から）



1 1区北半護岸140（北から）



2 1区南半全景（北から）



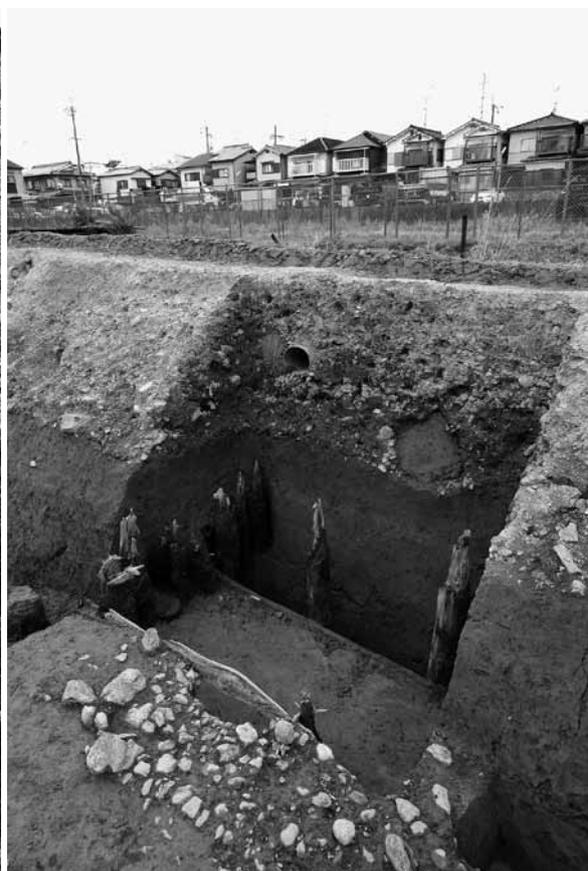
1 1区南半落込131敷葉状況（北東から）



2 1区南半護岸119と杭列123（南西から）



3 1区南半護岸119（北から）



4 1区南半杭列123（北東から）



1 2区全景（北から）



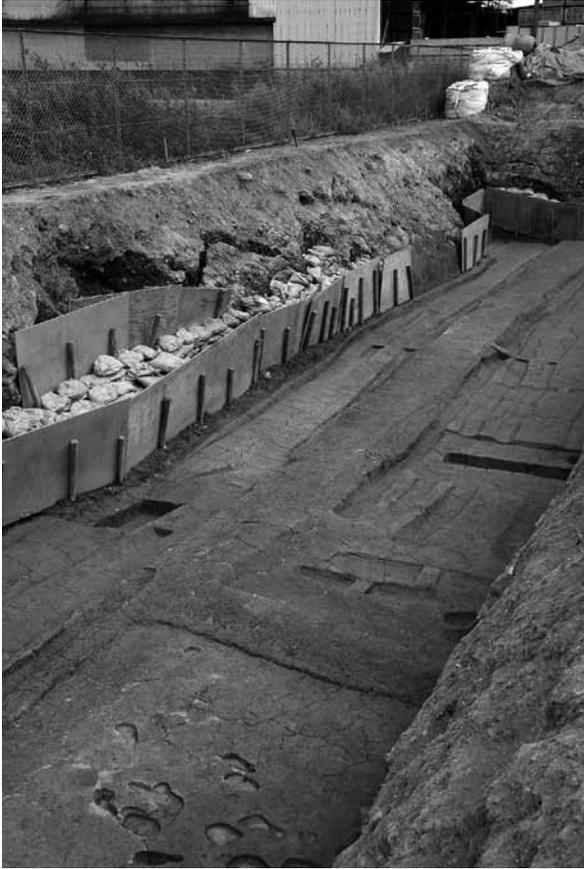
2 2区護岸88（北西から）



1 2区水路102 (東から)



2 3区全景 (北西から)



1 3区畦71・72・73 (北西から)



2 3区足跡群 (北から)



3 4区全景 (北西から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	はづかししみずちょういせき・ながおかきょうあと							
書名	羽束師志水町遺跡・長岡京跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2021-7							
編著者名	布川豊治							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2022年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はづかししみずちょう 羽束師志水町 いせき 遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 はづかししみずちょう 羽束師志水町 ちない 地内	26100	1198	34度 55分 46秒	135度 43分 37秒	2021年5月 11日～2021 年10月29日	697㎡	道路関連 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
羽束師志水町 遺跡	集落跡	平安時代		須恵器、瓦器、瓦類		落込、護岸跡は近 現代の西羽束師川 支流の河川改修の 跡である。		
長岡京跡	都城跡	江戸時代後期	溝、畦、足跡	土師器、土師質土器、 施釉陶器、磁器、染付 陶磁器、瓦類				
		明治時代～ 昭和時代	落込、護岸跡	土師質土器、施釉陶器、 磁器、染付陶磁器、瓦 類、木製品、石製品、 ガラス片				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-7
羽束師志水町遺跡・長岡京跡

発行日 2022年2月28日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961